

野老澤行灯廊火 2020 とは

毎年 7 月に開催される「野老澤行灯廊火（ところさわあんどんろうか）」ではこの地口行灯を約 230 個「所澤神明社」に並べていました。



今年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から各種イベントの開催は中止となりましたが、西武所沢S.C./ワルツ所沢から元町交差点付近までの商店街に約135個の「地口行灯」を飾る予定ですので、ぜひお楽しみください。

そして来年こそ所沢神明社の夜のとばりにうかび廊下のように長く続く幻想的な地口行灯の灯りをぜひご覧ください。

今年は「地口絵※1」と「アマビエ様※2」を行灯の両面に貼りました。

※1 地口絵

地口とそれに合わせた滑稽な絵を描いて箱行灯に仕立てたものです。

祭礼の時に 参道や氏子家々の軒先などの屋外に灯して飾られます。

現在は電灯の灯りになっていますが、昔は蝋燭を中にいれて灯しました。

夕暮れの中で絵や文字がぼんやりと浮かび上がり、情緒を盛り上げました。

所沢の地口行灯はいつ頃から作られたか知りませんが、

お天王様のお祭りの日に有楽町の各家の軒先に飾ります。

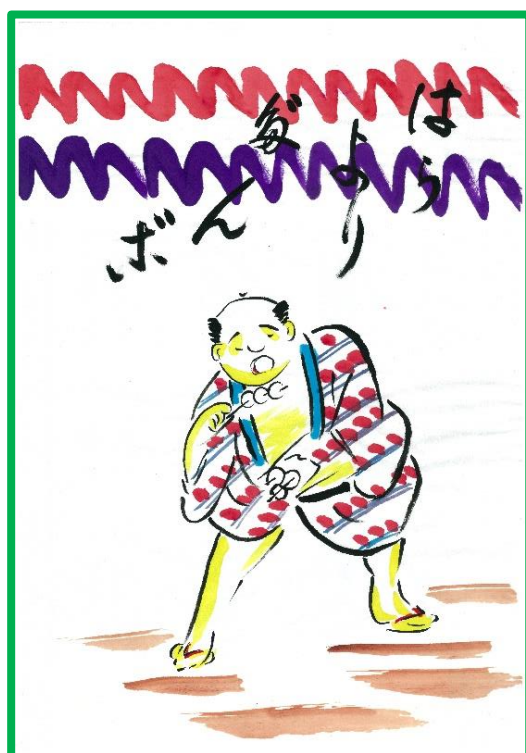
お祭りの風物詩として欠かせないものです。



地口：あそこに神社
元句：靖国神社



地口：はらより団子
元句：花より団子



江戸時代の肥後（熊本）に出現した妖怪。外見は人魚のようで鳥に似たくちばしがある。「病がはやったら私の写し絵を人々に見せよ」と言い残し海へ消えたとの言い伝えがあるそうです。



一陽来復(いちようらいふく)とは

悪いことが続いた後で幸運に向かうという意味があります

☆早くいつもの生活が取り戻せますように